京都大学
大学院経済学研究科
経済学部

2023

Graduate School of Economics and
Faculty of Economics,
Kyoto University

令和6年度
経済学部特色入試について

京都大学経済学部では、令和5年度より学校推薦型選抜の特色入試を実施しています。
募集人員は「文系型入試」15人、「理系型入試」10人です。
この特色入試では、人格・見識共に特段に優れており、下記の求める人物像に合致した人材を、
学校長が推薦してくれることを期待しています。

京都大学経済学部 令和6年度学校推薦型特色入試が求める人物像

経済学・経営学は個人から政府に至るまでの幅広い対象の経済活動ならびに企業の営利活動を研究対象とし、個人や社会の厚生の向上を目指す学問です。経済学部では、学問に固有な分析手法を修得できる知力と探究心を持ち、かつ、自主的に考え創造的な提案が行える人材に成長できる学生を求めています。
特色入試では、大学院への進学を希望し、下記の進路を目指す学生を求めています。

1. 文系型入試

国際的な経済問題に興味を持ち、歴史的・文化的背景を重視した包括的なアプローチにもとづいて課題解決を志向する学生。特に、国際連携を重視した修士課程へ進学し、広い視野と高度な英語力を習得するとともに、優れたコミュニケーション能力とリーダーシップを発揮して産業界・官庁（国際機関を含む）にて活躍を目指す学生。もしくは、研究者養成のための修士課程・博士後期課程に進学し、持続性を重視した経済政策論・経済発展論などの分野で世界をリードする研究者になることを目指す学生。

2. 理系型入試

数学・統計モデルを用いた理論・計量分析に興味を持つ学生。特に、高度専門人材養成を目指す修士課程へ進学し、データサイエンス・計量経済学に関する高度な専門知識を修得して産業界・官庁にて活躍を目指す学生。もしくは、研究者養成を目指す修士課程・博士後期課程に進学し、経済理論・応用経済学等分野にて世界をリードする研究者になることを目指す学生。

提出書類

❶ 調査書
❷ 推薦書（大学院進学への興味についても言及すること。）
❸ 学びの設計書（大学院に進学した場合どのような研究をしたいかという抱負を含む。文系型入試では国際的問題に対する関心についても記載すること。）
❹ 顕著な活動・学習実績の概要
❺ 文系型入試ではTOEFL iBT、IELTS、TOEIC Listening & Reading Test、GTEC（CBTに限る）の受験者成績書の原本（コピー不可）、または実用英語検定（英検）の合格証明書の原本（コピー不可）のうち少なくとも1つ

選抜方法および基準

提出書類、及び大学入学共通テストの成績を総合して合格者を決定します。大学入学共通テストの合計得点が900点満点中概ね80%以上であり、文系型入試では「世界史B」、「外国語」の2科目の得点率がいずれも概ね90%以上の者について、理系型入試では「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」「物理」の3科目の得点率がいずれも概ね90%以上の者について、提出書類をA・B・C・Dの4段階で評価し、Aの者を合格とします。

経済学と歩んで100年

歴史と思想に学びつつ、最新理論と手法を用いて経済にまつわる複雑で多様な課題の解決策を探る

京都大学経済学部は、1919年に法学部（法科大学）から分かれて誕生し、経済学の研究と教育に関しては、日本において古い伝統を持つ学部です。その1世紀を超える歴史の間に、京都大学経済学部は、経済学を中心として著名な研究者を輩出するとともに、日本経済をリードする個性的な実業界のリーダーや、社会の各方面で活躍する人材を送り出してきました。これからも市場と経済の急速で構造的な変化やグローバル化を見据えて、絶えず先進的な経済学と経営学の研究を進め、高度な学部・大学院教育を発展させていきます。

History

明治	30（1897）	京都帝国大学設立
	33（1900）	法科大学に経済学第一講座、財政学講座を設置
大正	4（1915）	「経済論叢」創刊
	8（1919）	経済学部創設
	15（1926）	The Kyoto University Economic Review（のちのThe Kyoto Economic Review）創刊
昭和	23（1948）	調査資料室（のちの経済資料センター）設置
	24（1949）	新制京都大学設置
	28（1953）	大学院経済学研究科設置
	37（1962）	経済研究所設置
	54（1979）	外国人留学生の特別入試開始
	59（1984）	外国学校出身者の特別選考による受入開始、3年次編入試験開始
	63（1988）	論文入試導入
平成	12（2000）	プロジェクトセンター設置
	14（2002）	上海センター（のちの東アジア経済研究センター）設置
	16（2004）	国立大学法人京都大学となる
	18（2006）	経営管理大学院と公共政策大学院の設置
	21（2009）	研究科に東アジア国際人材開発コース（のちの東アジア持続的経済発展研究コース）設置
	26（2014）	スーパーグローバル大学創成支援事業による「京都大学ジャパンゲートウェイ構想」に参画
	30（2018）	大学院博士後期課程に国際ダブルディグリー・プログラム設置
令和	3（2021）	国際連携グローバル経済・地域創造専攻設置
	4（2022）	学校推薦型選抜による特色入試開始

ご挨拶
Welcome Message from the Dean

依田 高典
経済学研究科長・経済学部長

ここ千年の都・京都にて、京都大学経済学部・大学院経済学研究科へ、皆さまをお迎えできたことを心から嬉しく思います。京都の四季は美しいです。春は洛東・哲学の道を逍遥し、夏は洛北・貴船で涼を楽しみ、秋は洛南・醍醐で月を愛で、冬は洛西・嵐山で雪を踏む。皆さまにとって、とても大切な青春の1ページの始まりです。時を惜しんで、学問に励むと共に、良き思い出を作ってください。京都大学経済学部は、2019年に学部創立100周年を迎えた、日本最古の経済学部の一つです。京都大学は自由の学府として、何よりも学生自身の自学自習の精神を尊重してきました。好きこそものの上手なりけれと、利休居士は遺しています。人生は長いです。好きな人生の主題を見つけて下さい。

私が京都大学経済学部に入学したのは1985年春でした。よく覚えています。入学式の前日に茶話会が開催され、学部長、研究所長を差し置いて、新入り教員だからと謙遜しつつ、口を開くや、独演を止めない御仁がいました。「法学部でなくて経済学部で良かった。経済学ほど面白い学問はない。社会に応えられる学問を学んで欲しい」。さすがに大学というところは、怪人物のいるところだと感心しました。ゼミ選択の折りに、その怪人物の名前が伊東光晴であることを知るや、この御仁に勝とうと、敢然と伊東ゼミの門を叩き、毎週のゼミの度に論争を挑みました。勝てませんでした。この御仁は挑戦的な若者を愛し、卒業の秋に就職の挨拶にうかがった折り、長嘆息して「惜しいねえ」と言いました。その一言で、私は人生の主題を悟り、翌年の大学院進学を決意しました。人の出会いは人生を変えます。

さて、私は2021年春に学部長・研究科長に就任しました。人生は短いです。多くのことを望みません。私は2つの主題に注力したいと思います。

第一の主題は、文理融合教育の推進です。経済学ほど面白い学問はありません。今、経済学はいわゆる人工知能のようなデータサイエンスと融合し、新しい実証的学問として、世界を変えつつあります。京都大学経済学部はいち早く理系入試を取り入れ、文理融合教育を目指してきました。これからも全学のセンター・研究科と協力して、経済学とデータサイエンスの融合教育に取組んでいきます。文系学生は理系の科学技術知識を、理系学生は文系の文化歴史芸術を身につけて下さい。日本は今、国際競争の苦境の中で呻吟しています。従来型の狭い知識人では、これからの荒波を乗り越えられません。皆さまは文理の枠を飛び越えて、新しい時代の波を作って下さい。

第二の主題は、国際的研究力の強化です。国民は自由の学府・京都大学の卓越した研究力にこそ心から期待しています。湯川秀樹先生のように、福井謙一先生のように、山中伸弥先生のように、私たちは卓越した世界的研究で、社会に応えたいと思います。そのためには、教員の働き方の革新と役割の分担が必要です。チームとして、経済学研究科の研究力を強化しなければなりません。そして、大学院生の皆さまこそ、その輪の中心に陣取り、従来型の学問体系に果敢に挑戦しなければなりません。私はその環境整備のために、力を尽くしたいと思います。皆さまは国境の枠を飛び越えて、新しい学問の波を作ってください。

人生は長いようで短いです。掻痒として焦ることもあるでしょう。人生は短いようで長いです。汪洋として戸惑うこともあるでしょう。私たちは皆さまに焦る自由、戸惑う自由を与えたいと思います。そうした時には、春に洛東・哲学の道を逍遥し、夏に洛北・貴船で涼をとり、秋に洛南・醍醐で月を愛で、冬に洛西・嵐山で雪を踏む。京都の美しい四季を愛でて下さい。

卒業生の声

❶ 京都大学経済学部で学んで良かったこと・身に付いたスキル
❷ 面白かった授業
❸ 学生時代に特に力を入れていたこと
❹ 現在のお仕事について（仕事内容・やりがい）
❺ これから学ぶ後輩たちへのメッセージ

谷口 智也

東京ベイ・浦安市川医療センター
2013年3月 経済学部 経済経営学科 卒業

❶京都大学経済学部には、現代の社会システムや資本主義といった経済システムに興味関心が強い学生が多いと思います。そのような環境で日々議論できたことは、社会を批判的に見つめる良い訓練になったと思っています。

❷間違いなくゼミです。私は竹澤祐丈先生の社会思想史ゼミに2～4回生の間所属していました。テキストを毎週輪読していくスタイルで、新書からスミスやヒュームの著作まで幅広く勉強しました。学生同士で議論し、先生は都度、ヒントを投げかけてくれたり、方向修正してくれたり、レクチャーをしてくださいます。自分の知らない視点、思考、知識に毎回さらされ、大変刺激的でした。どんな世界に進もうと、俯瞰的視点、批判的思考力は不可欠な能力だと思いますが、それをみっちりと鍛えることができたのが、このゼミでした。

❸ゼミとサークル活動でした。ゼミでの議論、そして年1回のゼミ論（4回生時は卒業論文）執筆は間違いなく今の私の土台となっています。また、ゼミやサークルで得た友人は今でも付き合いが続いています。久しぶりに合えば近況報告に始まり、気づけば当時と同様、政治や哲学の議論に花が咲きます。

❹最初は厚生労働省に就職しましたが、より人の側で働きたいと思い、医学部に学士編入し、現在は初期研修医として働いています。多くの患者さんと関わることができ、充実した日々を送っています。一般的なキャリアではありませんが、恵まれない方に寄り添う社会のあり方や、それにどう自分自身が関わっていけるのか、という問題意識に沿ってここまできました。自らのテーマについて思考を深められたのも竹澤先生のゼミのおかげでした。

❺大学は答えがない問についての思考の訓練、そして自身の価値観を醸成する場だと考えています。最高の師や最高の友人たちと出会い、たくさん読書し、議論して、思考力を鍛え、自身の価値観を掘り下げてください。ここで得られた縁と経験は一生の財産になりますよ。

山村 萌

株式会社シナモン 執行役員
Business Development グループ
2016年3月 経済学部 卒業

❶たくさんの素晴らしい先生方や友人、先輩方の胸を借りて、学び方を学べたことが非常に良かったです。大学入学前の勉強は「受験」という大義があって、そこに向けて授業でインプットして、定期的な試験で「正解」を目指しますが、京大経済での学びは全く違いました。自ら問いを立てるところから始まりますし、別に授業を座って受けることだけが学びではない。正解もないことがほとんど。今はこの学びこそが本質なんだと思っています。

❷どんな分野でも、学ぶフィールドが豊富で、積極的に利用していました。KUINEPで留学生に交じって英語で講義を受けたり、法学部の科目を履修したり、企業が提供する特別講義があったりと、知的好奇心の赴くままいろいろな授業を受けました。異分野の授業を受けると、いろいろな面白いことをやっている人と新しく出会えるのが楽しかったです。

❸ゼミと部活です。ゼミは、黒澤ゼミと竹澤ゼミに所属していましたが、毎回のゼミ・通期での論文執筆を通して、課題設定とそのアプローチについて、先生方に並走いただき、学びを体得する感覚でした。また、体育会サッカー部は、顧問やコーチがいない学生主体でした。部活は競技をするための集まりと思っていましたが、会社のように渉外や営業まで自分たちでやっていたんです。学生という特権をフル活用して、様々な経験をさせてもらいました。

❹現在、AIのスタートアップで働いています。メインの業務であるクライアント向けの提案活動だけでなく、事業戦略策定・採用など含め守備範囲はかなり広いですが、視点を変えると自分で社内外の課題を見つけてきて、アプローチするというすごくシンプルな仕事です。AIという最先端技術を扱うので、エンジニアではないながらに、最新の情報を学び、ビジネスでどう活用するかを考え続けなければならないのが大変さであり、やりがいです。

❺まずは大学に入学することを学習の目標にされる方も多いかと思いますが、むしろ卒業後社会に出てからのほうが学び続けることの重要性が増すのではないかと思います。学ぶことにフォーカスできる学生時代に、本当の意味での「学び」の基礎体力をつけることがかなり重要だと思います。私自身も、これからも、皆さんと一緒に学び続けていければと思っています。

薗田 竜之介

佐賀大学 所属
2012年3月 経済学研究科 経済システム分析専攻
博士後期課程研究指導認定退学
2013年3月 京都大学 博士（経済学）

❶一口に経済学と言っても様々な学派や理論があるのですが、京都大学経済学部ではそれらをバランス良く学ぶことができたため、一つの見方にとらわれず多面的に問題を分析する姿勢が自然と身につきました。私はその後、大学院に進学して研究者となったため、このスキルが現在の仕事にそのまま役立っていますが、仮に研究の道に進まなかったとしても、大学時代に身につけた考え方は人生の大きな財産になったことと思います。

❷講義もさることながら、2回生時から所属したゼミでの勉強が思い出深いです。私が入ったゼミは小規模で、同回生は私一人だけだったのですが、その代わりに大学院生の先輩方が数多く参加してくれて、アカデミズムの世界を身近に感じることのできる場でした。先生の研究室でお茶を飲みながら、まったりとした雰囲気の中で行われるゼミでしたが、そこで交わされる議論は真摯で知的なものであり、「これが大学か」と大いに刺激を受けました。

❸推理小説研究会というサークルに所属し、会誌の編集長などを務めていました。暇さえあればBOX（部室）に入り浸って、友人たちとくだらない雑談や真剣な議論に明け暮れていましたが、そんな贅沢な時間の使い方ができたのも大学時代ならではだと思います。

❹現在は佐賀大学経済学部の教員として、研究と教育に従事しています。研究者の世界は非常に厳しいものですが、自分の仕事が学問の発展に貢献することになるというやりがいは、何物にも代え難いものです。また自分が京都大学の先生方から教わったように、自身の学生たちにも経済学の面白さを伝えたいと思いながら、教育を行っています。

❺京都大学、特に経済学部はとにかく自由で、それゆえに楽しく、また厳しい場所です。ここでしか味わえない経験を存分にして、人生の宝を見つけて下さい。

経済学部

Faculty of Economics, Kyoto University

アドミッション・ポリシー
Admission Policy

経済学・経営学は個人から政府に至るまでの幅広い対象の経済活動ならびに企業の営利活動を研究対象とし、個人や社会の厚生の向上を目指す学問です。その研究対象は決して単純ではなく、財政、産業、雇用、金融、地球環境などに解決すべき諸問題が次々と発生し、複雑性を増しています。京都大学経済学部は、自由の学風を維持しつつ、経済学・経営学の基礎的な科目の教育を充実すると共に、絶えず新しい分野の学問を教育することを心がけ、社会経済の変化に柔軟に対応し、解決策を発見、創造できる人材を育成することで学界、官界、産業界に貢献してきました。
このような歴史を踏まえ、本学部は、経済学・経営学的分析能力を修得できる知力と探究心を持ち、かつ、教員や他の学生と積極的に討論を重ねることにより、自主的に考え創造的な提案が行える人材に成長できる学生を求めており、以下のような学生の入学を期待しています。

【経済学部が求める学生像】
- ●高等学校教育を通じて広範で高度な基礎知識を身につけるとともに、論理的思考力ならびに語学能力を修得している人
- ●社会・経済活動全般に積極的に関与したいと考える、知的好奇心が旺盛な人

本学部が求めるような学生の成長を促すうえでは、多様な背景をもつ学生を受け入れることが重要であり、現在、「文系入試」、「理系入試」および「特色入試」という３種類の学力検査を実施しています。
定員の多くを占める文系入試においては、経済学・経営学を学ぶための基礎となる地理歴史と数学、論理的思考力を担保する国語、専門教育や卒業後の国際的活動に不可欠な英語の4科目に関して個別学力試験を実施しています。理系入試においては、文系入試における地理歴史の試験に代えて理系用の数学試験を課すことで、経済分析で重要となる数理的能力を重視した選抜を行っています。大学院への進学を希望し、学問に固有な分析手法を修得できる知力と探求心を持ち、かつ、自主的に考え創造的な提案が行える人材に成長できる人を対象に実施する特色入試においては、高等学校の調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動・学習実績の概要、大学入学共通テストおよび英語能力試験を総合して選抜を行っています。
また、これらの3種類の入試においては、総合的学力の評価を行うために大学入試センター試験の点数を取り入れた合否判定を行っています。その他にも、外国人留学生、外国学校出身者、3年次編入者向けに、多様な学力検査の機会を提供しています。

経済学部カリキュラム
Curriculum

経済経営学科の1学科制を採用しています。国内外の経済の複雑化、企業経営の変容を対応できるよう、経済学・経営学および隣接領域を総合的に学習し、幅広い知識と深い思考力を身につけます。

体系的な専門教育

経済学部生が履修する科目は全学共通科目と学部科目に分かれ、学部科目は入門科目、専門基礎科目、専門科目、演習科目、その他（特殊講義、他学部科目）に区分されます。入門科目、専門基礎科目、専門科目はA群（ミクロ・マクロ経済学系科目）、B群（制度・歴史系科目）、C群（経営・会計系科目）、D群（数理・統計・情報系科目）のいずれかに分類され、積み上げ方式となっています。キャリア設計に対応してこれらを組み合わせる履修モデルを参考に、系統的に専門性を高めることができます。

経済学部 経済経営学科 コースツリー（科目構成）

京都大学経済学部 経済経営学科の教育目標（ディプロマ・ポリシー）

1. 経済学・経営学についての基礎知識を修得している。
2. 経済学・経営学の知識をもとに、現代経済社会の諸問題について主体的に考えて分析し、解決策を考察できる。
3. 社会経済の変化に対応できる、柔軟な思考力と創造性を身につけている。
4. 経済学・経営学に関連する幅広い教養と十分な語学力を身につけ、異なる文化的背景を持つ人々と交流できる。

学部科目 84単位以上

	A群 ミクロ・マクロ経済学系	B群 制度・歴史系	C群 経営・会計系	D群 数理・統計・情報系	特殊講義・他学部科目	演習科目
卒業論文						
専門科目（2–4年次）※教員の退職などに伴い変更されることがあります。	公共経済学 行動経済学 労働経済学 国際経済学 都市経済学 厚生経済学 産業組織論 開発経済論 環境経済論 交通経済論 国際金融論 日本経済論 東アジア経済論 国際貿易政策 動学的マクロ経済分析　等	社会経済学2 経済学史 社会思想史 応用社会思想史 現代経済思想 日本経済史 欧米経済史 上級経済史 経営史 日本経営史 現代日本経営史 国際経営史 地方財政論 経済政策論 農業経済論 国際農政論 Global Economic History Global Economy and Overseas Exchange Seminar A・B　等	人的資源管理論 比較経営論 イノベーション・マネジメント概論 サービス経営学 証券投資論 企業分析 財務会計 管理会計 国際会計論 原価計算論 ファイナンス工学 派生証券論　等	経済数学1 経済数学2 計量経済学2 調査・実験経済学 情報処理論1 情報処理論2 経営情報論 計画理論　等	特殊講義 法学部提供科目 他学部科目 合計20単位まで卒業単位に算入可能	演習（4回生） 演習（3回生） 外国文献研究（2年次）※全学共通科目
専門基礎科目（2–4年次）	ミクロ経済学1 ミクロ経済学2 マクロ経済学1 マクロ経済学2	社会経済学1 経済史 財政学 金融論	経営戦略 経営組織 経営財務（コーポレートファイナンス） マーケティング1 会計学	統計学2 計量経済学1 意思決定論	選択必修 A群 入門科目2単位・専門基礎科目2単位以上 B,C,D群より2群 入門科目2単位・専門基礎科目2単位以上	入門演習（1年次）
入門科目（1・2年次）	ミクロ経済学入門 マクロ経済学入門	社会経済学入門 経済史・思想史入門 現代経済事情	経営学入門 会計学入門	統計学1 情報処理入門		

全学共通科目　56単位以上

自主性を尊重

学部科目には、経済学部生として必須の能力を身につけてもらうために入門科目、専門基礎科目に選択必修の制度を設けていますが、必修科目はなく、自主的で創造的な学修を奨励しています。卒業論文も選択制です。優秀な卒業論文を顕彰する制度を設け、学生が自主的に卒業論文に取り組むことを推奨しています。2022年度入学者から全学共通科目に必修の外国語科目の一部に代えてデータ科学分野の科目を選択できる制度を導入し、さらに柔軟なカリキュラムの発展を進行中です。

少人数教育

創立以来、演習（ゼミナール）制度を重視し、少人数の学生と担当教員による対話型学習システムを築いてきました。1年次対象の入門演習、3・4年次対象の演習を開設しており、担当教員の指導のもと、少人数の学生同士で様々な具体的テーマについて報告・討論しながら、問題の本質を捉え明らかにする思考力と創造性を養います。2年次には経済学部教員が担当する全学共通科目の外国文献研究があります。

学位の授与

4年以上在学（3年次編入者は2年以上）して、規定の単位数を取得した学生は、学士試験に合格した者と認められ、学士の学位が授与されます。卒業に必要な単位数は140単位以上で、そのうち全学共通科目を56単位以上、学部科目を84単位以上取得しなければなりません。卒業論文（選択）の合格者には6単位が認められます。

学士・修士5年プログラム

経済学部（学士・修士5年プログラム）短期修了制度（短修制度）は、選抜された学生が経済学部4年次に大学院の科目の一部を受講し、修士論文作成のための研究指導を受けられる制度です。大学院経済学研究科修士課程の特別選抜および在学期間短縮制度と組み合わせることにより、通算5年間で修士（経済学）学位を取得することができます。優秀な学生に、早期に研究者としてのキャリアをスタートさせること、または企業や官庁のなかで高度な専門知識を必要とする職に就くことを支援します。短修制度・特別選抜を経て修士課程の研究者養成プログラムに進学した学生には学修奨励金を支給します。

学生相談室及び留学生支援室

学生相談室では、学生生活を送る上で、困ったこと、悩み等の相談を随時受けています。さらに、経済学研究科・経済学部に在学する留学生を支援するために、留学生支援室が設置されています。留学生支援室で行っている支援は、授業関連の支援（授業内容案内、文献検索方法や勉強方法の相談など）、事務手続きの支援（受講登録、諸手続き補助、奨学金案内など）、その他、学内施設案内、入管文書説明、就職活動相談などです。閉室となる春・夏・冬休み期間中でも、留学生支援室はメールでの質問・相談を受け付けています。

学生の声

理系入試

経済学部 経済経営学科 3回生　大見 龍之介

京大経済の魅力は大きく分けて3つあります。1つ目は履修科目の自由度が高いことです。似た興味関心を持つ仲間と共に積極的に学ぶことが出来ます。2つ目は文理融合教育に力を入れていることです。多角的なアプローチを学ぶことが出来ます。3つ目は京都にあることです。学生の街として知られる京都で快適な学生生活を送ることが出来ます。

文系入試

経済学部 経済経営学科 3回生　太田 裕佳

京都大学経済学部の魅力は、専門科目の選択肢の多さとゼミだと思います。専門科目では、財政学や会計学など様々な分野の講義の中から自分の興味があるものを選んで受講するので、様々な分野の面白さに触れることができます。一方ゼミでは、1つの分野を少人数で学ぶので、1つの分野を深めることもできます。そのため、経済学を広くも深くも学ぶことができると感じます。

学部卒業生の主な就職先

経済産業省	三井住友信託銀行	アクセンチュア	カルビー株式会社
厚生労働省	三菱UFJ銀行	アビームコンサルティング	株式会社マネーフォワード
国土交通省	東海旅客鉄道	PwCコンサルティング	株式会社セブン-イレブン・ジャパン
金融庁	西日本旅客鉄道	ボストン・コンサルティング・グループ	株式会社スクウェア・エニックス
ゴールドマン・サックス	伊藤忠商事	ベイカレント・コンサルティング	株式会社キーエンス
JPモルガン証券	住友商事	三井不動産	株式会社日本M&Aセンター
日本銀行	三井物産	三菱地所	株式会社ドワンゴ
日本政策投資銀行	三菱商事	楽天	株式会社キリンホールディングス
日本生命保険	関西電力	プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社	株式会社LeoSophia
野村證券	大阪ガス	株式会社ワンスター	ロート製薬株式会社
みずほフィナンシャルグループ	NTT西日本	株式会社シティ・コム	富士通株式会社
みずほ証券	ソフトバンク	株式会社日立製作所	双日株式会社
東京海上日動火災保険	EY新日本有限責任監査法人	SMBC日興証券株式会社	京都府
三井住友海上火災保険	有限責任あずさ監査法人	株式会社ベルシステム24	京都市職員
三井住友銀行	有限責任監査法人トーマツ	株式会社ラック	京セラ株式会社

優秀卒業論文賞

2021年度卒業論文の中から、特に優れた卒業論文3編が顕彰されました。

今井 竣祐「"Higher-Order Asymptotic Properties of Kernal Density Estimator with Plug-In Bandwidth"（プラグイン法によるバンド幅選択がカーネル密度推定量の高次漸近構造に与える影響について）」

川口 薫喜「国際貿易が人的資本形成に与える影響の実証研究」

萩原 健史「公共資本投資が公債残高と経済成長に与える影響－財政赤字における財政政策効果の分析－」

優秀卒業論文受賞者

優秀学生論文賞（樟若葉賞）

経済学部では、現役学部生の自由研究とその論文執筆を推奨しています。
本賞は、こうした学生の論文の中から卒業論文以外の優秀なものを表彰するため、2017年度に創設されました。
2021年度は 5論文の応募があり、2論文が顕彰されました。

今井 大輔、鎌仲 祐輔、深谷 紀希
「資源枯渇化と人口成長および人口減少を伴う小国開放経済の持続的成長の可能性
—経済成長モデルを用いた理論分析」

戸村 駿介、劉 世芃、瀬崎 航平、山瀬 楓乃、藤原 康太郎
「再生エネルギー導入が東北経済に与える影響に関する実証分析」

優秀学生論文受賞者

寄附講義

現代経済はますます複雑化し、ダイナミックに変動しつつ発展しています。その複雑な動態を理解するためにも、原理についての知識だけでなく、各種産業や商業の経済活動の実態の理解やプラクティカルな知識がますます重要になってきています。
そこで経済学部では、寄附講義として学外の専門実務家の方々を招いて実践的な講義を開設しています。寄附講義の講師はおもに実務の第一線で活躍する方々が担っており、ときには会長や取締役にも出講いただいています。授業を通じての実務家との接触は人材育成という点からも大きな意義があり、多くの学生が強い関心をもって聴講しています。

主な寄附講義

SMBCグループ　投資銀行業務とグローバル戦略

SMBCグループ寄附講義「投資銀行業務とグローバル戦略」は、学生に対し、投資銀行業務や銀行のグローバルビジネスのダイナミズムに触れてもらうことを目的として、2011年より、大学院共通科目として開講しています。この講義の受講生には、時代の変化とともに多様化・高度化する企業の経営課題に対応し、日本の銀行がスペシャリスト集団を結集して進める資金調達・運用や、M&A・リスクヘッジ・環境ビジネス等に係わる先端的ソリューションの開発・組成ビジネス、最新のITイノベーション戦略への取り組み、グローバルな金融サービス戦略の概要等について、具体的なプロダクツや事例を題材に学習していただきます。講義では、多彩な講師陣が自らの経験や現場の最前線の話題に触れ、臨場感あふれる講義を行います。講義への参加にあたって、専門的な知識は必要ありません。金融や銀行業務に興味のある学生、将来的に金融業界での就職を希望する学生の、積極的な参加をお待ちしています。

SMBCグループ　実践企業分析

SMBCグループ寄附講義「実践企業分析」は「投資銀行業務とグローバル戦略」を踏まえ、金融および銀行業務に関する、より専門的な知識を修得することを目的として2017年より開講しています。本講義に於いては、企業の財務分析やプロジェクトの評価方法等について、実際の企業データを用いて実践的に学習します。講師による講義のみならず、グループワークによる各種分析手法の実践に重きを置いた講義となります。最終的には、本講義で習得する分析手法を用いて、学生の皆さんが主体的に戦略的な提案を考案し、その結果を説得力のある形でプレゼンテーション出来るようになることを目指します。講義の性質上、受講者数は20名弱に制限していますので悪しからずご了承ください。財務諸表や分析手法に関する知識は問いませんので、関心のある方は積極的にお申し込みください。

MS&ADインシュアランスグループホールディングス　保険論

MS&ADインシュアランスグループホールディングスは、京都大学経済学部の学生を対象に、変貌する現代社会における保険業務を分かりやすくかみ砕いて教授することを目的として、実務の最先端で活躍する企業人をゲストスピーカーとして派遣する「保険論」の講義提供を行います。
従来型の生命保険・損害保険ニーズに加えて、医療年金分野の保険ニーズは高まる一方です。加えて、近年では、モノのインターネットなど、ICT技術の目覚ましい発展によって、個人のパーソナル・データが社会的に広く利用可能となり、木目の細かな痒いところに手の届く保険商品開発が盛んになっています。
こうした新しい保険ビジネスの発展動向に興味を持ってくれる学生の知的好奇心の喚起と未来の保険マンの掘り起こしも、この寄附講義の狙いの一つです。「保険論」では、産学連携の新しい取組として、京都大学経済学部生の沢山の聴講を歓迎します。素朴な疑問をMS&ADインシュアランスグループホールディングスのゲストスピーカーに積極的にぶつけて下さい。

ポラリス・キャピタル・グループ　プライベート・エクイティファンドと企業価値向上

コロナ禍の下、日本経済・社会が大きな構造変化にさらされ、日本の産業の競争力強化に向けたプライベート・エクイティ投資の重要性が高まっている中、本講義では、新しい金融機能としてのリスクマネー供給の重要性について学んでいきます。そのためには経済学的観点に加え、投資先の企業価値向上を行うことで、日本経済の競争力強化やビジネスモデルの転換を後押しする観点が重要です。プライベート・エクイティファンドに係る様々なプロフェショナル（ファンド経営者・投資先企業・投資銀行・弁護士など）をゲスト講師として招へいし、担当教員とのディスカッションによって、金融機能の体系的な理解を実務とアカデミズムの観点から深めていきます。ぜひご参加ください。

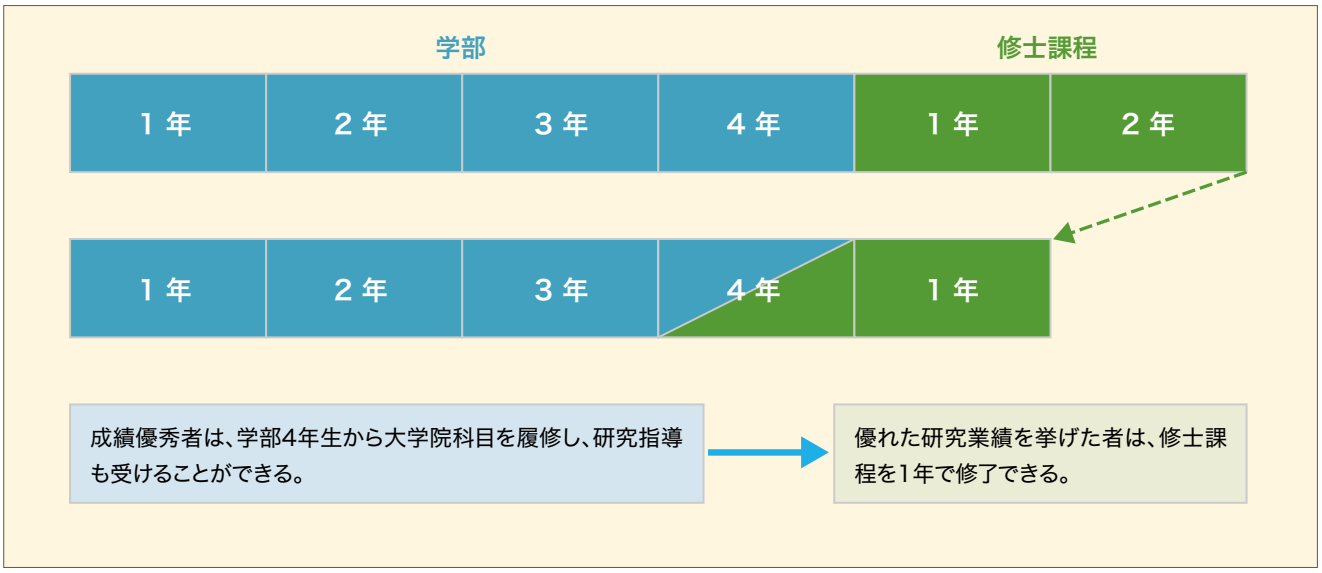
三井住友信託銀行　金融理論と実際の金融市場

本講義は、三井住友信託銀行の実務担当者が金融実務の基本的事項を説明し、金融理論が実際トレーディング戦略や金融機関のリスク管理、顧客ニーズに対するソリューション等にどのように応用されているかを全15回にわたり紹介します。金融理論が実際の現場でどのように活かされているかを学習し、理論と実務の関連性や相違点を理解するのが目的です。
具体的には金融理論のトレーディング戦略への応用、金利・為替デリバティブのトレーディング実務、デリバティブのプライシング理論の概要とその限界、クオンツとAI投資（ロボット運用）、銀行ALMや有価証券投資の実務、事業法人における市場リスクおよびデリバティブを活用したリスクコントロール手法、マーケットと信託といった金融実務について解説する予定です。金融理論のみならず金融実務に関心のある方もぜひともご参加ください。

短修制度

ハイスピードでの修士学位取得

経済学研究科では、2018年度の大学院入学生より、優秀な成績を修めた場合に、通常2年以上の在籍期間を1年に短縮して修士課程を修了できる「在学期間短縮制度」を開始しました。京都大学経済学部生のうち、学部での成績や面接に基づき選抜された「学士・修士5年プログラム」に所属する学生は、学部4年次において大学院の科目の一部を受講しながら修士論文作成に向けた研究指導を受けることができます。これらの学生は、特別選抜入試を経て経済学研究科に入学した場合、この制度を利用して、通常は6年間を要する学部・修士課程を通算5年間で修了することが可能です。



アドミッション・ポリシー
Admission Policy

経済学研究科修士課程・博士後期課程

日本で最も古い伝統を誇る経済学研究科の一つである京都大学大学院経済学研究科は、創設以来、経済学分野における研究教育の一大拠点として活動を続けてきました。修士課程・博士後期課程の教育・研究を通して、経済・経営における諸活動を、科学的に分析し、財政、産業、雇用、経営、金融、地球環境など、現在の日本が抱える諸問題に対して、本質的な解決策を提示しうる研究者、および専門能力を備えた実務家の養成を行っていました。経済学の最先端を切り開き続けるためには、即効性のある個々の断片的な知識を詰め込むよりも、過去に例のない様々な種類の問題に対して創造的に対応できる能力が必要になります。このような能力を持つ学生を輩出するため、私たちは以下のような学生の入学を期待しています。

1.修士課程においては、志望分野を学ぶために必要な基礎学力を有している人、博士後期課程においては、志望分野に関する深い専門的知識を有している人
2.経済学の研究を通じて学術の高度化に寄与する意欲をもっている人、およびその普及・社会的還元に携わる意欲をもっている人
3.志望分野において、先駆的な研究課題を自ら設定することができ、それぞれの分野の方法論を学んで、課題を解決する能力をもっている人
4.日本語あるいは英語によって、研究成果を国内外に効果的に発信するための、もしくは実践を通じてその社会的還元に携わるための語学能力を具えている人

本研究科は、入学者選抜にあたり、公平な選抜を実施しています。人種、宗教、性別、ジェンダー、年齢、国籍、政治的信条、障害等を理由に差別することはありません。

上記のポリシーを実現するため、本研究科修士課程では、学士課程の成績等の書類審査、TOEFLの成績による評価及び経済学等関連の専門知識や研究計画を評価する試験を適宜組み合わせた多様な入学試験を実施します。
また、本研究科博士後期課程においても、修士課程の成績等の書類審査、論文審査及びTOEFLの成績による評価及び口頭試問を適宜組み合わせた入学試験を実施します。
東アジア持続的経済発展研究コース（ＥＡコース）においては、学士課程または修士課程の成績等の書類審査とそれに基づく受入予定教員とのマッチングを行い、第１次合格者に対して面接試験を実施しています。

経済学研究科修士課程国際連携グローバル経済・地域創造専攻

本専攻では、社会や組織が直面する様々な課題に対し、歴史的素養と経済学的な知識に裏打ちされた批判的で分析的な思考を生かして取り組むことができる人材、またグローバル化する今日の世界においてリーダーシップを発揮できる国際的な人材を育成します。そうした人材を輩出するために、選考にあたっては、以下の能力・意欲・経験を持つ人物を評価する形で選抜を行います。

1.批判的・分析的な思考力を持ち、自ら問題を設定できる。
2.歴史に関する知識・関心を持つ。また経済学あるいはその他の社会科学的な諸領域について基礎的な学力を持ち、社会科学的な概念を扱うことができる。
3.グローバル化やその下での地域の変容への関心を持ち、社会や組織が具体的に直面する課題に対して、リーダーシップを持って取り組みたいという意欲を持つ。
4.英語による社会科学系論文の文章論理を理解し、また自らの主張を英語による文章で表現できる。同様に口頭でのコミュニケーションでも意思の疎通が可能である。
5.社会的責任と研究倫理を自覚し、それらを踏まえて学修する資質を持つ。

上記のポリシーを実施するため、本専攻の選考は、カリキュラム・ポリシーで示した「GLOCALプログラム」の選考の一部として行われます。ただし、出願者はあらかじめ希望する学修経路（スタディトラック）を定めた上で出願し、出願後はこれを変更することはできません。GLOCALプログラムへの出願者のうち、京都大学での学修を含む学修経路を選択して出願し、選考を経て入学を認められた者が、本専攻の所属学生となります。
GLOCALプログラムにおける選考は基本的に書類選考によって行われますが、本専攻を含む学修経路に関しては、口頭試問が課されることがあります。出願者は、GLOCALプログラムが定める共通の出願資格を満たす必要があり、それには以下のような要件が含まれます。
－学士号を持つ者。特に、本プログラムの主題に関連する人文社会科学諸分野（例えば経済学、経営学、歴史学、経済史・経営史・社会史その他）に関する学士号を持つ者、あるいはそれと同等とみなされる者。
－GPA基準で75%以上（国別のGPA要件については別途定めGLOCALのウェブサイトに掲載）
－IELTS総合点6.5以上、能力別評定の全てが6.0以上

本専攻の教育課程を含め、GLOCALプログラムにおいては、入学者選抜にあたり、公平な選抜を実施しています。人種、宗教、性別、ジェンダー、年齢、国籍、政治的信条、障害等を理由に差別することはありません。

修士課程・博士後期課程カリキュラム
Graduate School Curriculum

有数の伝統

経済学研究科は、1953年に開設された伝統のある研究科です。大学院で修士の学位を授与された人は、2022年3月現在で2,000名を超えており、博士の学位を授与された人は、1,100名を超えています。その多くが研究者となって大学やシンクタンク等で研究職に就き、内外の学界で活躍しています。大学院教育の中軸としての研究者養成は、今後も重視します。

経済学研究科の4つのプログラム

経済学研究科には現在、「経済学専攻」と「京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻」の2専攻のもと4つのプログラムが設置されています。

経済学専攻

修士課程（2年）

研究者養成プログラム
（Rプログラム）
博士号取得を目指すプログラムです。
↓
同プログラム
博士後期課程（3年）

高度専門人材養成プログラム
（Pプログラム）
修士課程のみのプログラムです。
↓
就職
金融機関、専門機関、官公庁、その他

英語・秋入学プログラム
東アジア持続的経済発展研究コース
（EAプログラム）
英語講義に基づくプログラムです。
↓
同プログラム
博士後期課程（3年）

京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻

修士課程（2年）

英語・秋入学プログラム
国際連携グローバル経済・地域創造専攻
（国際ジョイントディグリー課程）
グラスゴー大学、バルセロナ大学、京都大学の3大学連名の学位が授与されます。
↓
就職／進学
博士課程編入学／企業、国際機関他

学術的専門性と実践性の追求

設立当初からの伝統を引き継ぐ日本語による修士課程の教育カリキュラムは、2019年度より**「研究者養成プログラム」**と**「高度専門人材養成プログラム」**の2つのプログラムに再編されました。

「研究者養成プログラム」は、博士後期課程進学を前提に、研究者を養成することを主たる目的とするプログラムです。授業履修と修士論文研究により、経済理論、社会経済学、応用経済学、経済史・経済思想史、経済政策、経営・会計学など、経済学とその関連の諸領域における学術的蓄積を継承し、研究に必須の基礎学力および分析能力を習得することを目標とします。

「高度専門人材養成プログラム」は、修士課程での修了を前提に、経済学に基づく高度な専門知識を備え、国内外の社会の期待に応えられる高度専門職業人を養成することを主たる目的とするプログラムです。授業履修と修士論文研究により、経済学と関連諸領域および実証・データ分析における基盤的・先端的な専門知識を習得し、またグループワークや英語を含むコミュニケーションに関する能力を高め、国内外の経済社会の課題・問題を実践的に分析、解決できる能力を習得することを目標とします。

博士後期課程の教育カリキュラムでは、大学院生ごとに複数の教員による博士論文指導委員会がつくられ、3年間で博士論文を作成できるように個別指導をおこなっています。また、研究状況に応じて発表を行うとともに高度な討論、切磋琢磨の場を設けるためにセミナーやワークショップを開設しています。

東アジア持続的経済発展研究コース
（英語による教育カリキュラム）

「東アジア持続的経済発展研究コース」は、英語を共通言語とした秋入学のプログラム（修士課程2年間、博士後期課程3年間の研究者養成用コース）です。このプログラムでは、環境・社会・ガバナンスという切り口と多角的・学際的・国際的な視点から、開発政策・産業政策・経営管理をめぐる諸問題を解決し、東アジア地域を中心とする世界の社会経済的諸問題の実践的解決と持続可能な発展に資する学術研究者、国際機関や国際NGO等で活躍する実務エコノミストを養成することを目的としています。本コースに所属する学生は、アジアを中心に世界各地の出身者で構成されています。また、海外からの招へい研究者による講義も提供されるなど国際的な環境の中で学習することができます。

修士課程３大学国際共同学位プログラム
（英語による教育カリキュラム）

京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻は、英語により教育を行う秋入学の修士課程国際共同学位（ジョイント・ディグリー）課程であり、グローバル・リーダー人材を養成するプログラムです。

このプログラムは、学生はグラスゴー大学（第1学期）、バルセロナ大学（第2学期）で半年ずつ、また2年目には京都大学（第3・第4学期）にて学び、3大学が共同で授与する修士（グローバル経済・地域創造）の学位を取得します。歴史的素養と経済学的知識、批判的で分析的な思考、国際性とリーダーシップを兼ね備えた人材の育成を目標とする本専攻では、学生は、グローバル化とその下での各国・各地の動態を、歴史的な視点と経済学・経営学を軸とした学際的なカリキュラムによって学びます。本専攻が提供するこの3大学共同学位課程は、欧州を中心とする7大学連合が提供する「GLOCALプログラム」（Erasmus Mundus International Master: Global Markets, Local Creativities）の一部を構成しており、学生は、地理的な偏りなく世界中から集まる学生たちと共に学びます。

（京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻の詳細はP14,15ページを参照してください。）

ダブルディグリー・プログラム

ダブルディグリーは、京都大学と外国の大学が協定を締結し、双方の修了要件を満たした学生に対して、双方の大学がそれぞれ学位を授与する制度です。学生は、一つの大学では得られない高度で付加価値の高い学修機会を獲得できます。2018年より京都大学経済学研究科とグラスゴー大学（イギリス）社会科学系カレッジとの連携による博士課程国際ダブルディグリー・プログラムがスタートしました。

このプログラムは、本研究科の博士後期課程所属の大学院生が対象で、両大学の教員による共同指導を受けつつ、京都とグラスゴーで各2年研究に従事し、両大学の学位論文審査に合格することで両大学から博士号が授与されます。

JICA開発大学院連携プログラム

東アジア持続的経済発展研究コースは京都大学が参加するJICA開発大学院連携プログラム・経済領域の受け皿となり、ASEAN諸国をはじめとする開発途上国の未来と発展を支えるトップリーダーの育成に貢献しています。同プログラムの支援で新たに開講した科目「International Development Assistance Policy」では、日本の政府開発援助（ODA）の最先端で活躍するJICA関係者、ODA等の開発プロジェクトに参加する民間企業の担当者、そして開発プロジェクトの現場で生起する諸問題についてモニタリングやアドボカシー活動を展開するNGO・市民社会組織の担当者を講師に、開発援助の実態に迫りながら、持続可能な発展のあり方について学んでいます。

修士課程修了者の主な就職先

三井住友銀行	アクセンチュア	岡三アセットマネジメント株式会社	Shanghai Investment Consulting Group Co.,Ltd.
住友生命保険	アビームコンサルティング	浦発銀行	KE Holdings Inc.（BEKE）
デロイトトーマツグループ	京都市	住友商事株式会社	IBM
みずほ総合研究所	任天堂株式会社	株式会社谷町君	アバナード株式会社
三菱総合研究所	大阪星光学院中学校・高等学校	東京海上アセットマネジメント株式会社	
日本アイ・ビー・エム	XGIMI	Essence Securities Co., Ltd.	

在学生の声

経済学研究科 経済学専攻修士課程高度専門人材養成プログラム（Pプログラム）1回生　松元 拓海

学部4回生の夏に北米への1年間の交換留学から帰国し、後期から「学士・修士5年プログラム（修士課程短期修了制度）」を利用して経済学研究科の講義に参加しました。プログラムの選考にあたっては留学先からのオンライン面接を認めていただき、京大経済の懐の深さを実感しています。私が在籍する高度専門人材養成プログラム（Pプログラム）ではプログラミングを用いた機械学習やデータ分析のチームプロジェクトなどの実践科目を中心に、学部で学んだ経済学の知識を多角的に深めることができます。私は高校時代から地理学に関心があり、大学では人間の生活や産業の裏側に潜むメカニズムを理解したいという想いから経済学部に進学しました。修士課程では学部から継続し、経済活動の地理的構造や都市の形成を分析する空間経済学の学修に力を入れています。本研究科ではPプログラムの学生であっても、並行して研究者養成プログラム（Rプログラム）の講義を受講することができるため、関心のある分野を心おきなく突き詰めることができます。多様な仲間との出会いのなかで自分の手で選び、未来を拓くことができるのが京大経済学研究科の魅力だと考えています。

博士課程修了者の主な就職先

京都大学	琉球大学	佛教大学	日本総合研究所
東京大学	慶応義塾大学	京都先端科学大学	三菱総合研究所
大阪大学	青山学院大学	桃山学院大学	日本生命保険
九州大学	立教大学	蘇州大学（中国）	Asian Development Bank Institute
神戸大学	同志社大学	北京外国語大学（中国）	Beijing Puxiang Hospital Investment Management
横浜国立大学	関西学院大学	国際連合食料農業機関（FAO）	
徳島大学	関西大学	KPMGコンサルティング	

在学生の声

経済学研究科 経済学専攻修士課程研究者養成プログラム（Rプログラム）2回生　川口 薫喜

本研究科のRプログラムに進学する利点として、まず「経済学の基礎・応用を体系的に学べること」が挙げられます。基礎科目であるミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学・数学・統計学等をきちんと受講すれば、経済学一般に通ずる知識を習得でき、より高度な研究へスムーズに移行できます。また、専門科目では各分野に特有の理論・分析手法等を学ぶことで応用力を身につけられます。「研究環境が充実していること」も利点の1つです。本研究科所属の学生は、経済分析でよく使われるStataやMATLABを無料で利用できますし、ComtradeやFinancialQUEST等の様々なデータへも容易にアクセスできます。セミナーに参加すれば、本研究科や経済研究所の先生方はもちろん、国内外の研究者の方々とも近い距離で交流でき、いい刺激になるでしょう。一見すると捉えどころのない人間の行動や社会現象に、（大胆な仮定を置きつつ）理論・実証を通してすっきりとした説明を与えるのは経済学の大きな魅力の1つです。近年ではデータの蓄積やコンピュータの発達によって、実務でも経済学が活用されるようになり、盛り上がりを見せています。みなさんもここで一緒に学び、研究してみませんか。

優秀修士論文賞

2021年度修士論文の中から、特に優れた修士論文3編が顕彰されました。

西岡 優一　「Asset Allocation in a Regime Switching Model with an L2-Distance
（L2距離を考慮したレジームスイッチングモデルにおける資産配分）」

趙 勝新　「今治船主の台頭と国際化：1970年以降日本海運業の構造変化と海事クラスターの役割」

平井 直知　「異質介入効果の推定手法の実験データを用いた比較」

優秀修士論文受賞者

優秀修士論文賞（東アジア持続的経済発展研究コース）

東アジア持続的経済発展コースの修士論文（2022年9月修了）の中から、特に優れた修士論文2編が顕彰されました。

CHEN Yuning（チェン ユーニン）
“Trade Policy Uncertainty ,Rent-Seeking Activities,Political Connections,and Firm Risk-Taking Behavior : Evidence from China
（貿易政策の不確実性、レントシーキング、政治的コネクション、及び企業のリスクテーキング：中国企業データによる計量分析）”

Alexis Nicolas SANDES GUICHON（アレクシス ニコラス サンデス ギチョン）
“The Influence of the Viveza in Latin America: Exploring and mapping a regional psychological construct
（ラテンアメリカにおけるVivezaの影響：地域の心理構成の調査とマッピング）”

優秀修士論文受賞者

京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻（修士課程）

International Joint Master Degree Program in Global Markets, Local Creativities

3大学国際共同学位課程

本専攻は、京都大学がグラスゴー大学（イギリス）およびバルセロナ大学（スペイン）と共同で提供する、英語による国際共同学位（ジョイント・ディグリー※）プログラムです。グラスゴー大学（第1学期）、バルセロナ大学（第2学期）、京都大学（第3・第4学期）で学び、修士の学位を取得します。

※ジョイント・ディグリーとは、連携する大学間で開設された共同プログラムを履修し、修了した者に複数の大学が共同で単一の学位を授与するものです。

グローバルリーダー人材養成

歴史的素養と経済学的知識、批判的で分析的な思考、国際性とリーダーシップを兼ね備えた人材の育成を目標とする本専攻では、グローバル化とその下での各国・各地の動態を、歴史的な視点と経済学・経営学を軸とした学際的なカリキュラムによって学びます。また国際性豊かな教師陣やカリキュラムを生かし、世界から集まる同級生との相互研鑽を通じて、多国籍企業、国際機関や各国政府、NGOや研究機関などを舞台にグローバルに活躍するための能力を養います。

GLOCALプログラムと地球規模の国際性

本専攻の課程は、欧州を中心に7カ国の7大学が連合するGLOCALコンソーシアムによる学位課程（Global Markets, Local Creativities: GLOCAL）の一部（スタディトラックD：右ページ参照）を構成しています。各国において京都大学とよく似た置にある7大学が密接に協働し世界水準の教育を提供します。

GLOCALプログラム所属学生の出身地域

GLOCALコンソーシアム構成大学

グラスゴー大学（イギリス）
バルセロナ大学（スペイン）
ゲッティンゲン大学（ドイツ）
エラスムス・ロッテルダム大学（オランダ）
京都大学（日本）
ウプサラ大学（スウェーデン）
ロス・アンデス大学（コロンビア）

本専攻の開設に先立ち2017年に発足したGLOCALプログラムでは、特定地域に偏ることなく世界各地からの学生が学んでいます（上図）。

GLOCALは欧州連合エラスムス・ムンドゥス国際修士プログム（EMJMD）であり、本専攻は同プログラム初の日本での正規学位課程です。エラスムス・ムンドゥス奨学生に選ばれた学生は授業料を免除され、欧州での学修期間は奨学金が支給されます。

プログラム概要

［専　攻　名］ 京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻
International Joint Master Degree Program in Global Markets, Local Creativities
https://www.econ.kyoto-u.ac.jp/glocal/

［学　位　名］ 修士（グローバル経済・地域創造）
International Master in Global Markets, Local Creativities

［学問分野］ ビジネス・ヒストリーを中心に、経営学（国際経営等）、経済学（経済政策論・産業論等）、社会学（都市・農村社会学等）、政治経済等に跨る多様な学際的領域

［修業年限］ 2年（グラスゴー大学6ヶ月、バルセロナ大学6ヶ月、京都大学12ヶ月）
全ての学生がグラスゴー大学から学修を開始し、バルセロナ大学、京都大学へと移動。

［入学時期］ 9月

［入学定員］ 8名

［使用言語］ 全カリキュラムを英語で提供

［修了要件］ 2年以上課程に在学して研究指導を受け、40単位（120ECTS）以上を修得、かつ修士論文（英語）を執筆し審査および試験に合格すること。

［窓　　口］ 京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻事務局
jd-econ@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

カリキュラム：7大学共学から京都での主体的な研究へ

本専攻の学生は9月に入学し、最初の半年間は、グラスゴー大学を拠点にGLOCALプログラムに所属する7大学の学生全員で“Global Economy”などの基礎科目を履修します。続く2学期には他の3つの「スタディトラック」の学生とともにバルセロナ大学で学び、インターンシップ等を含む実践的な授業を履修します。夏には、GLOCALの学生全員が参加し、また異なる学年の学生との交流の場ともなるサマースクール（毎年異なるテーマで開催）に参加します。2年目には京都大学に拠点を移し、「スタディトラックD」の主題である“Industrial Dynamics and Sustainability”に関する少人数制の講義・演習に参加しつつ、修士論文の準備に着手します。京都大学の教員を主指導教員、他の連携2大学の教員を副指導教員とする指導チームの下で修士論文を作成します。3大学が共同で行う学位審査を経て、3大学連名の学位が授与されます。

出願／学費・奨学金について

［出願期間］ 入学前年9月上旬から入学年1月初旬（2023年9月入学生募集締切：2023年1月6日）

［出願方法］ GLOCAL公式Webサイトよりオンライン出願：
https://globallocal-erasmusmundus.eu/how-to-apply/step-by-step-application-guide/

［出願資格］ GPA3.0以上（卒業・修了した大学の所在国等により異なる。上記サイト参照）
IELTS 6.5／TOEFL iBT90以上など（詳細は上記webサイト参照）

［受 験 料］ 無料

［合格発表］ 4月

［学　　費］ GLOCALプログラムの定めによる（京都大学の標準額とは異なる。下記サイト参照）
本専攻 Webサイト：https://www.econ.Kyoto-u.ac.jp/glocal/scholarship/
GLOCAL Webサイト：https://globallocal-erasmusmundus.eu/scholarships-fees-and-funding/tuition-fees/

［奨 学 金］ 出願時にエラスムス・ムンドゥス奨学金に申請することが可能です。
https://globallocal-erasmusmundus.eu/scholarships-fees-and-funding/erasmus-mundus-scholarships/

学生の声

国際連携専攻 1期生　吉川 英輝

“スコットランドの美しい大地にて”

地理的多様性・歴史的プロセスを重視した現代経済の分析に興味があり、国際連携専攻を選びました。GLOCALは複雑なグローバル経済を空間軸・時間軸で理解することを主題としており、この分野を世界的にリードする教授陣がいます。本専攻では多様な価値観に出会いました。国連機関や多国籍企業で働いてきた学生、起業を目指す者など、それぞれの人生経験を踏まえた主張からの学びが大きかったです。中南米の経済社会類型について議論をした際には、その地域出身の学生がビジネスグループのもつ影響力を語ってくれました。経験に基づく発言を求められるだけでなく、地域やトピックについての深い理解も求められます。価値観の違いが対立を生むこともありますが、その体験自体が得難いものであり、それを乗り越えることが貴重な財産になっています。GLOCALとは多様な学生と話し合わなければならない環境であり、現代経済社会の複雑性を理解し解釈する力と、グローバルなコミュニティでの対話する力を鍛えられる場だと思います。

国際連携専攻 2期生　安里 泰貴

本専攻は「自覚」の連続です。私は、経済体制の国際的発展における地域社会が秘める可能性に興味があり志望しました。グラスゴー大学では国際化・資本主義、加えて世界不均衡などを理論視点から批判的に捉え議論する機会を得ます。「答えが無い」からこそ「多角的視野」の重要性を学べる点が、大きな魅力です。多国籍の学生同士で日々の授業・課題を共に乗り越える過程で得られる強固な友情は、机上の学問以上に貴重な資本となります。本専攻開始以降、無知であることの恥と同時に「苦労しながらも努力する姿勢」の尊さを実感しています。同年代の学生と共に学び続け、新たな自己の一面や社会の在り方について「自覚」していきたいです。

国際交流

部局間交流協定による留学

経済学研究科・経済学部では、世界15か国・地域の26大学・研究機関と学術・学生交流協定（31協定先）を締結し、海外留学や外国人学生との交流の機会を提供しています（2023年12月現在）。協定校への交換留学生募集は、学部生・大学院生を対象として留学の開始時期毎に年に2回行われます。協定校で修得した単位は、所定の手続きにより京都大学での修得単位として換算可能です。
なお、経済学部の独自の取り組みとして、交換留学（大学間交流協定に基づくものも含む）への参加や英語科目の履修・修得、英語能力テストの一定スコア獲得といった、学生自身の努力を認定書という形で評価する「グローバルコース履修認定制度」を設けています。

国際連携大学院プログラム

京都大学は文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業（2014〜23年度）に採択された「京都大学ジャパンゲートウェイ構想」において、世界トップレベル大学と連携して質の高いカリキュラムと研究指導環境を提供し、さらに国際共同学位プログラム等の開発を通じて教育力と研究力の更なる強化を図ってきました。経済学研究科はこの全学的な取り組みのもと、「持続可能性」と「文化越境性」をキーワードに多様な国際連携教育プログラムを実施するため、文学研究科、農学研究科（生物資源経済学専攻）とともに「スーパーグローバルコース人文社会科学系ユニット（Asian Platform for Global Sustainability & Transcultural Studies）」を構成し、研究・教育の国際化を進めています。
経済学研究科は既存の大学院国際プログラム「東アジア持続的経済発展研究コース」の実績を踏まえ、本事業の一環として、外国人招へい研究者による集中講義（国際共同実施科目）提供や共同論文指導に取り組んでいます。また、国際共同実施科目をはじめとする英語提供科目の履修や国際学会での発表、国際セミナー／インターンシップへの参加等を体系的に進めた学生に対して「スーパーグローバルコース履修認定」を行うことで、次世代グローバル人材の育成に努めています。
本事業のもう一つの柱は、パートナー大学と連携して設置する国際共同学位プログラムの開発です。グラスゴー大学・社会科学系カレッジとの連携により2018年に設置された博士後期課程国際ダブルディグリー・プログラムと、グラスゴー大学およびバルセロナ大学との連携により2021年秋に設置された修士課程ジョイントディグリー・プログラム（国際連携グローバル経済・地域創造専攻）は、本事業の成果です。
さらに、国際共同学位プログラムに留まらず、教育研究交流のハブ拠点となることを目指し、欧州（ワーヘニンゲン大学等）およびアジア（タマサート大学、カセサート大学、ガジャマダ大学等）のパートナー大学との学生相互派遣や国際合同ワークショップ（新型コロナ禍のもとでもオンライン開催してきました）にも積極的に取り組んでいます。

東アジア持続的経済発展研究コース（英語による教育カリキュラム）

「東アジア持続的経済発展研究コース（東アジアコース）」は、英語を共通言語とした秋入学の大学院プログラム（修士課程2年間、博士後期課程3年間の研究者養成プログラム）です。環境・社会・ガバナンスという切り口と多角的・学際的・国際的な視点から、開発政策や産業政策、経営管理をめぐる諸問題を解決し、日本および東アジア地域を中心とする世界経済の持続可能な発展に資する学術研究者および実務エコノミストを養成することを目的としています。本コースに所属する学生の出身地は世界各地に広がっています。さらにJICA開発大学院連携プログラムや大学院交換留学生の受け皿となっているほか、科目の一部を共有する国際共同学位プログラム（国際連携グローバル経済・地域創造専攻）との相乗効果も期待されます。また、海外からの招へい研究者による集中講義も提供されるなど、京都にいながら国際的な環境の中で学修と研究に励むことができます。

受入留学生数 (2022.5)

地域	国	学部	修士課程	博士課程	聴講生	合計
アジア	インドネシア共和国	1		3		4
	シンガポール共和国	3				3
	タイ王国		1	2	1	4
	大韓民国	6	1	2		9
	中華人民共和国	1	92	28	9	130
	香港特別行政区		1			1
	中華民国(台湾)	4	2	1		7
	フィリピン共和国			1		1
	ベトナム社会主義共和国	1	1	2		4
	マレーシア	1		1		2
	モンゴル国	1				1
	ミャンマー連邦共和国	1				1
	ラオス人民民主共和国			1		1
北米	アメリカ合衆国			2		2
	メキシコ合衆国		1			1
中南米	ジャマイカ		1			1
	コロンビア共和国		1	1		2
	ウルグアイ東方共和国		1			1
欧州 NIS諸国	イタリア共和国			1		1
	フランス共和国			1		1
	オーストリア共和国		1			1
	スペイン王国		2			2
	デンマーク王国		1			1
	ハンガリー		1			1
	ルーマニア			1		1
	タジキスタン共和国			1		1
	ロシア連邦		1			1
中東	トルコ共和国		1			1
		19	109	48	10	186

交流協定校への派遣学生数 (2021.4～2022.3)

地域	国	学部	修士課程	博士課程	合計
アジア	中華人民共和国	1 (online)			1 (online)
	タイ王国				0
	シンガポール	1			1
	マレーシア				0
大洋州	オーストラリア連邦				0
北米	アメリカ合衆国				0
	カナダ				0
欧州	スペイン	1			1
	イタリア共和国				0
	英国	1		1	2
	オランダ王国				0
	ドイツ連邦共和国				0
	ベルギー王国				0
		3	0	1	4

※2021年度も前年同様に、新型コロナウイルス感染拡大による海外渡航の制限が続行されオンライン受講のみの協定校が多く、参加者が減少した。

協定校一覧

学術・学生交流協定一覧は
こちらのQRコードよりご確認ください。

研究／教育推進

公認セミナー

9種類の幅広い分野をカバーするセミナーを定期的に運営しており、国内外で活躍する研究者を招き、活発な議論を通じて、最先端の問題意識、知識の共有、研究者ネットワークの構築をはかっています。

史的分析セミナー

経済史・経営史・思想史・学説史など史的分析の分野を対象に、学内外の研究者、院生によるセミナーを開催します。

応用ミクロ経済学セミナー

応用ミクロ経済学(産業組織論、労働経済学、公共経済学、開発経済学、環境経済学、行動経済学など)の分野で活躍する国内外の研究者を招き、先端的な研究発表を聞いて議論します。応用ミクロ経済学における学術研究の推進と啓発を目的とします。

マクロ経済学セミナー

現代のマクロ経済学は研究対象が大幅に広がり、かつ方法論においても急速に進歩しています。このようなマクロ経済学の進歩にキャッチアップし、社会・学界に貢献する研究成果を上げるには、研究者や実務家との交流、意見交換、問題意識の共有が不可欠です。本セミナーでは、学外から研究報告者を招へいし、本研究科の研究成果を高めることを狙いとします。

会計学セミナー

財務会計・管理会計を中心として、内外の研究者を招き最先端の研究報告をしていただくことで、会計学についての最新の研究動向を把握し、研究水準の向上をはかることを目的として開催します。

アジア経済発展研究会セミナー

本学の東南アジア地域研究研究所、農学研究科と連携して、全学の経済発展論・開発経済学・アジア経済系の研究者の交流・共同研究の促進のために、学内外の研究者による研究報告とそれに関するディスカッションを行います。

経営学セミナー

経営学領域における経営組織論、経営戦略論を中心に内外の研究者を招き、研究報告と討論の機会を設け、京都大学大学院経済学研究科における経営学研究の活性化を図ること、および大学院生に高度な研究にふれる機会を提供することが、本セミナーの目的です。

国際経済学セミナー

国際経済学の研究について、国内外の研究者を招いて最先端の研究報告をしていただき、当該分野の研究動向に関する情報を収集するとともに、研究交流を行い、本学における国際経済学の研究の発展と大学院生や若手研究者らの育成に資することを目的とします。

中国経済セミナー

中国経済のダイナミックな変動を把握するとともに、それに関する研究成果を交流します。

研究員の受賞

氏　名	受賞年	賞の名称	受賞著作・活動
高井　計吾	2020	第15回清成忠男賞（論文部門）	「バイオベンチャーにおける提携ネットワークと研究開発活動」 （日本ベンチャー学会誌『ベンチャーレビュー』Vol.35, 35-47）
小東　茂夫	2020	総務省・NICT主催 令和元年度起業家万博 総務大臣賞	「カルテ要約支援AIソフトウェア『SATOMI』の開発と展開」

教員の受賞

氏　名	受賞年	賞の名称	受賞著作・活動
依田　高典	2014	JABMEE環境技術優秀賞	"Voluntary Electricity Conservation of Households after the Great East Japan Earthquake: A Stated Preference Analysis" *Energy Economics*
	2019	行動経済学会	"Moral Suasion and Economic Incentives: Field Experimental Evidence from Energy Demand" *American Economic Journal*
	2022	情報通信学会 論文賞優秀賞	「個人のプライバシー意識等とデジタルサービス利用に関する実証分析」
諸富　　徹	2014	租税資料館賞（著作の部）	『私たちはなぜ税金をおさめるのか』新潮選書
佐々木 啓明	2016	日本国際経済学会小島清賞優秀論文賞	"Positive and Negative Population Growth and Long-Run Trade Patterns: A Non-Scale Growth Model" *The International Economy*
	2022	アサヒグループ環境・サステナビリティ研究賞	人口成長と枯渇資源が経済成長に与える影響についての理論分析および実証分析
澤邉　紀生	2016	Emerald Literati Network Award for QRAM (Outstanding Paper Award)	"Core Values as a Management Control in the Construction of 'Sustainable Development'" *Qualitative Research in Accounting & Management*
神事　直人	2019	日本国際経済学会小島清賞研究奨励賞	企業の国際化要因と国際技術スピルオーバーに対する地域貿易協定の効果に関する理論・実証研究
関口　倫紀	2019	Academy of International Business Southeast Asia Regional Conference Best Paper Award (Human Resources and Strategic Management)	"Applying agent-based modeling and simulation to business research: A case of organizational behavior and human resource management studies"
	2020	Palgrave Macmillan-AJBS Best Paper Award	"Corporate philosophy as a linking mechanism: Antecedents and behavioral outcomes of internalization of corporate philosophy at Japanese MNCs in Thailand"
牧野　成史	2019	JIBS Gold Medal	1970年の創刊以来、Journal of International Business Studies（JIBS）誌において学術面で最も貢献度の高い研究者に贈られる賞
	2020	Best IBR Paper of the Year	Li, M.Y., Makino, S., Jiang, C. 2019. "Does national sentiment affect foreign direct investment, and if so, how? Additional evidence" International Business Review, 28(5)
	2021	IACMR-GSJ Global Strategy Best Paper Award	Wnag, P., Liu, B., Makino, S. 2021. "When experience eclipses dependence: Host country experience, international joint venture dissolution, and the moderating role of host country institutions"
草野　真樹	2020	国際会計研究学会学会賞	「IFRS適用をめぐる実証研究の棚卸しと展望」、『国際会計研究学会年報』 2019年度第1・2合併号
安達　貴教	2021	日本応用経済学会・2020年度学会賞	「二面市場・価格差別など産業組織の分野、更に公共経済学等の分野における独自性の高い諸研究（European Economic Review, Economica, Journal of Law, Economics, and Organization, Small Business Economicsなど）」
竹内　憲司	2020	環境経済・政策学会学術賞	環境経済・政策分野の優れた研究業績を挙げた者に授与する賞 （過去10年間の研究業績を対象）

附属組織

経済学研究科では、研究・教育を促進させるために、様々な活動をサポートし、そのための附属組織を有しています。

プロジェクトセンター

経済学研究科附属プロジェクトセンターは、(1)現代産業社会活性化のためのプロジェクト型研究を組織し、(2)教育技法・教材の開発、産業社会の分析などを行うことにより、広く経済学・経営学の教育研究の向上に寄与することを目的として、2000年11月に設立されました。
プロジェクトセンターでは、上記(1)の目的を達成するため、「大学院教育研究高度化プロジェクト」を募集し、プロジェクトセンター運営協議会で審査の上、2010年度に5件、2013年度に1件、2014年度に1件のプロジェクトを採択し現在に至っています。また、上記(2)の目的を達成するため、任期付きの若手研究者の積極的登用などを進め、現在9名の専任教員が採用されております。
学外との交流に関しては、各プロジェクトと関連のある研究者をリサーチ・フェローとしてセンターのメンバーに加えるとともに、先端的研究を行っている講師を招へいして各種セミナー等を開催し、プロジェクトの発展と普及につとめています。これらプロジェクトセンターの成果の一部は、経済学研究科の「ディスカッションペーパーシリーズ」として公表されています。

東アジア経済研究センター

経済学研究科附属東アジア経済研究センターは2002年に設立され、急成長を遂げる中国及び他の東アジア諸国の経済に関する研究の実施、東アジア地域における研究ネットワークの形成、研究成果の社会への還元、および東アジアで活躍する人材の育成を目的とした活動を行っています。主な活動内容は以下の通りです。

1.シンポジウム・研究会の開催

毎年1～2回中国経済等に関する定例シンポジウムを開催しています(下記の項目4をご参照ください)。また、東アジア経済を研究する学内外の研究者や学生同士の学術交流を深めるために、「中国経済研究会」、「アジア経済発展論研究会」などを、毎年それぞれ4～8回程度、開催しています。この他、中国、韓国、台湾、ベトナムなど諸外国の協定校との国際交流セミナー等を随時開催しています。

2.情報発信

本センターでは、2013年末まで機関紙に当たる「東アジア経済研究」を年1回発行しておりましたが、その後、東アジアセンター・ワーキングペーパーとしてリニューアルし、本センターのHP及び冊子体で公表することにしています。

3.人材育成

東アジア地域の経済発展、とりわけ持続的な発展を促進するためには、人材育成が必要不可欠です。本センターは、2011年から2012年にかけて、中国の中央と地方政府の若手幹部を対象に「日中共同持続的発展人材育成短期研修プログラム」を実施しました。2017年度以降は, 若手研究者支援の一環として, 経済学研究科から毎年若干名のジュニアリサーチャーを受け入れています。

4.中国経済シンポジウム

最近では、下記の中国経済シンポジウムを開催しました。

①2019年度春季シンポジウム

テーマ:岐路に立つ中国経済: チャンスとチャレンジ
日　時:2019年6月15日(土)13:30～18:00
会　場:京都大学時計台国際交流ホールI

講演1:金堅敏(富士通総研主席研究員)「加速する中国のデジタルイノベーション」
講演2:陳義(北京神州竜芯集積回路設計有限会社会長)「中国における科学技術の発展の活力と課題」
講演3:劇錦文(中国社会科学院経済研究所研究員)「中国民営経済の地位と経済の質的向上」

2019年度春季シンポジウム

②2022年度中国経済研究会

- 「中国における火力発電生産と CO2排出権取引の活性化に関する実証分析」(馬騰)
- "How to play politics? SMEs in Chin" (Wang Tao)
- 「中国経営陣発明者のイノベーションパフォーマンスに関する実証分析」(劉曙麗)
- 「二次データによる中国社会経済の実証分析について」(厳善平)
- 「浙江省の経済成長と所得格差の変動:中国の共同富裕モデル省に対する考察」(戴二彪)
- "Competitive Neutrality of State-owned Enterprises in China's Steel Industry" (渡邉真理子)
- 「中国における起業の大衆化政策と『衆創空間』」(村上直樹)
- 「なぜ、中国経済が急成長できたのか」(劉徳強)

三井住友銀行金融研究教育センター

2011年に三井住友銀行からのご寄付をもとに、「三井住友銀行金融研究教育センター」が設立されました。
センターには、「データストリーム」(Thomson Reuters社)と呼ばれる金融・経済分析のためのデータベースを配備しています。株価・企業財務データ・債券・金利・オプション・為替・マクロ経済データなどの時系列データを取ることが可能です。その際は、エクセルをインターフェイスとして使うことができますので、簡単にデータをダウンロードすることができます。これらのデータは、大学院生・学部生が、講義の課題に取り組む際、また論文を執筆する際の実証研究には欠かせないものです。講義で得た理論的な知識をもとに、自分でデータを分析することにより、新たな問題意識や研究の着想を得る契機となる可能性もあります。またセンターでは、研究発表やセミナーを開催するための設備もあり、経済学研究科・経済学部における金融研究教育のひとつの拠点となっています。

三井住友フィナンシャルグループ
太田 純 執行役社長からのメッセージ

昨年、アルゼンチンの優勝で幕を閉じたサッカーワールドカップ・カタール大会では、レジェンドの活躍やルーキーの台頭に注目が集まりましたが、テクノロジーを活用したデータの収集・分析も大きな話題となりました。

ボールに内蔵されたICチップやスタジアムの天井に配置されたビデオカメラを通じて、審判の判定をアシストするAIが導入されています。1秒間に500回もボールの位置やスピード、回転数といったデータを収集するとともに、12台のカメラで選手やボールの動きを撮影し、そうしたデータをリアルタイムで分析することで、半自動的にファウルの有無やオフサイドの判定を行っているそうです。

日本対スペイン戦でも、テクノロジーが大いに活躍したことは記憶に新しいと思います。通称『三苫の1mm』と呼ばれる奇跡は、三苫選手の最後まであきらめない気持ちと、最先端のテクノロジーによる正確な判定から生まれ、日本代表のベスト16進出に繋がりました。

また、近年の試合では、ボールの支配率や選手の活動範囲、パスの成功率やシュート回数など、選手のプレーの質もデータで可視化され、戦術や戦略の策定に活用されています。チームを勝利に導くかどうかは、データ分析の巧拙が大きく影響するとも言えるでしょう。

私自身も、ダイナミックに変動する金融や経済に関して、客観的にデータを収集・分析し、現状を正確に把握すると同時に、先行きが不透明な状況のなかでも、起こりうる変化の仮説を立てて、経営戦略を立案・実行することを心がけています。

三井住友銀行が法経済学部東館3階に設置している「金融研究教育センター」では、金融・経済に関する豊富なデータを手に入れることができます。是非積極的に活用し、仮説の構築・検証を繰り返すことで、世界を大局的に捉える力を養ってもらいたいと思います。

さらに、我々は、2011年から毎年、寄附講義を実施しています。毎回、金融の最前線で活躍するプロフェッショナルが講師となり、金融実務のリアリティや市場のダイナミズムをお伝えしています。是非、金融・経済の面白さを感じてもらえればと思います。

SMBCグループとして、そして京都大学のOBの一人として、我々のこうした取組みが、皆さんの勉学や研究のお役に立つことを心より願っています。

経済学研究科・経済学部図書室

図書室の蔵書のうち学生の学習に必要な図書や新刊雑誌は開架コーナーですぐ手に取ることができます。また、内外に誇るべき多彩なコレクションとして各種の特殊文庫があります。2023年4月に図書室と経済資料センターが統合し、センターで収集された各種統計書、白書や京都を中心とした関西地域の企業・経済団体等の一次資料などを含め、多様な資料を有する図書室となりました。

50席の閲覧席には、日々、勉学に勤しむ学生の姿があります。

一部の貴重書を除く全学の所蔵資料は、KULINE（京都大学蔵書検索）で検索できます。また多数のデータベース、電子ジャーナル、電子ブックを学内LANから利用することができます。

《蔵書数》和書：約327,475冊　洋書：約298,832冊　和雑誌：5,201種類　洋雑誌：3,299種類

関連活動

京都大学経済学会

京都大学経済学会は、1919（大正8）年の京都大学経済学部創立と同時に創設され、経済学・経営学に関する研究・教育の振興や、京都大学大学院経済学研究科・経済学部の発展に寄与してきました。

1915（大正4）年に創刊され100年以上の歴史を持つ学術誌『経済論叢』を刊行し続け、京都大学における経済学研究の成果を公表してきました。『経済論叢』は2015年に創刊100周年を迎え、記念号として、河上肇博士をはじめとする経済学部に在籍した歴代教員の代表的論文の再録も含む特別号を発刊しました。

経済学分野でアジア最古の欧文学術誌である1926年創刊のThe Kyoto Economic Reviewを2018年に経済学研究科より引き継ぎ、経済学・経営学分野の英文総合誌として国内外に学術成果を発信してきました。

2023年より、『経済論叢』とThe Kyoto Economic Reviewを統合し、同時に完全オンライン化したウェッブ上の学術誌『経済論叢』（The Kyoto Economic Review）として生まれ変わりました。

京都大学経済学系に所属する専任教員へ単著出版助成を行い、経済学研究科における研究成果の普及に寄与しています。

社会連携

産学共同講座

京都大学は、産官学連携を通じて研究成果の還元と社会貢献を積極的に進めることを基本理念の1つとしています。社会と産業界に広く貢献することを目的に、民間企業等と京都大学の双方が共同でプロジェクトの拠点形成することで、イノベーションの創出を図るという新たな制度が産学共同講座です。

再生可能エネルギー経済学講座

再生可能エネルギー経済学講座では、再生可能エネルギーの普及促進のために、技術的障害をどう克服するかという観点だけでなく、それを促す社会経済システムをどう設計するのかという観点から研究を進めるための拠点づくりを目指し、積極的に政策を提言・発信していきます。

■第1期（2014年4月1日～2019年3月31日）
参加企業：エネルギー戦略研究所株式会社

■第2期（2019年4月1日～2024年3月31日）
参加企業：エネルギー戦略研究所株式会社

〈参加研究者〉

諸富　徹	経済学研究科 教授
杜　依濛	経済学研究科産学共同講座 特定講師
張　砣	経済学研究科産学共同講座 特定助教
山家　公雄	経済学研究科 特任教授（エネルギー戦略研究所株式会社 取締役研究所長）
安田　陽	経済学研究科 特任教授（エネルギー戦略研究所株式会社 取締役研究部長）
竹内　敬二	経済学研究科 特任教授（エネルギー戦略研究所株式会社 シニアフェロー）
内藤　克彦	経済学研究科 特任教授（エネルギー戦略研究所株式会社 シニアフェロー）
永田　哲朗	経済学研究科 特任教授（エネルギー戦略研究所株式会社 シニアフェロー）

産官学連携（受託研究など）

学術研究の成果を社会に還元し、また産官学の連携による創発や革新を実現するために、経済学研究科は、受託研究や各種の共同研究をおこなっています（例:　低炭素型の行動変容を促す情報発信（ナッジ）等による家庭等の自発的対策推進事業（多様な価値観を反映したパーソナル・ナッジの開発と社会実装））。

公的部門との連携（政策立案など）

教員は公共的な役割を担って活動しており、国または地方公共団体の行政機関に設置されている審議会等の委員等として、専門的見地から助言・指導などを行っています（内閣官房デジタル市場競争本部事務局、文部科学省高等教育局、公正取引委員会、京都府等の委員）。

高等学校との連携

高大連携事業の一貫として、経済学研究科教員による高等学校での出張講義や見学説明会、大学訪問等の受入れを行っています。

京都大学経済学部 100周年記念賞

京都大学大学院経済学研究科・経済学部は、所属する大学院生および学部生を対象として、学業だけではなく、課外活動や各種社会活動において、経済学部・経済研究科の名誉を高めた個人または団体を対象として表彰をしております。
2023年1月26日にコモンルームにおいて第4回 100周年記念賞の授賞式を執り行い、依田高典研究科長より受賞者に賞状が授与されました。
三原大知氏は、（当時 経済学部4回生）京都大学硬式野球部の主務 兼 アナライザーとして同部の躍進に大きく寄与しました。同氏は、経済学の学習を基にしたデータ分析手法を用いて、選手やチームのパフォーマンスを緻密に分析し、有効な戦略を提言しています。今回の審査では、データ分析の実践性と可能性を示した点が高く評価されました。

推薦者の竹澤祐丈准教授、三原大知氏、依田高典研究科長

同窓会

相京 重信　同窓会長　ご挨拶

同窓会長の相京です。昨年度も新型コロナに振り回された一年でありました。同窓会活動だけでなく大学の運営も大きな制約を受ける中、わが経済学部は先生方の多大なるご努力により、引き続き少人数教育に注力される一方、「学校推薦型」の特色入試を新たに導入される等の諸改革を実施されたことに感服いたします。

本年になり新型コロナの制限の緩和、感染症5類への見直し等の方向性が示され、少し明るさが見えてきたような気がいたします。同窓会といたしましても本来の目的である「会員相互の親睦及び大学との連絡をはかる」という原点に返り、依田先生をはじめとする教授陣並びに卒業生の皆様のご協力を得て同窓会活動を活性化していければと思っております。更にそうした活動を通じ、卒業生の皆様のネットワークを広げ、より強固なものとし、皆様の活動範囲、人脈を広げることが出来れば幸いであります。

昨年度、京都大学は125周年を迎えました。京都大学が益々発展し、同窓会がより一層親しみやすくまた魅力的なものになるよう努力してまいりますので、どうかご協力のほどよろしくお願い致します。最後になりましたが皆様方の益々のご健勝、ご活躍をお祈りいたします。

活動内容

毎年、大学で総会を開催し、同窓会報を発行しています。同窓会報には、総会を始めとする様々な行事のご案内やご報告、支部の活動、大学・経済学部の様子、退任教員・新任教員の紹介、卒業生の近況などをお知らせしています。日本各地に8支部を設け、地域ごとに総会や懇親会等が行われています。学部の現教員も大学での総会はもちろん支部総会への参加や支部講演会の講師をするなど、積極的に関わっています。

※2020～2022年度までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、総会は書面にて開催しました。（2019年度は百周年記念式典と合同で開催しましたので2018年度のものを使用しております）

卒業生主催イベント

卒業生の皆様が開催されるクラス会・ゼミ会なども盛んに行われています。とくに「卒業50周年記念同窓会」は卒業50年を節目とし、京大百周年時計台記念館において盛大に行われています。

在学生交流イベント

学部生の皆さんにも、在学中から先輩や教員との交流を深める機会を増やすため、2009年より「同窓会学生特別会員」を入学時に募集しています。会員になっていただくと、毎年大好評の「在学生イベント」に無料で参加できるほか、色々な特典を受けられます。

このように同窓会は、学部卒業生、大学院修了生、在学生、名誉教授等の旧教員、学部現教員を中心に組織されており、世代を超えて交流が図られています。

教員紹介

①専門分野　②専門分野の面白さについて　③QRコード

依田 高典 教授
Ida, Takanori

①応用経済学
②人間の経済心理の限定合理性に着目する「行動経済学」を専門としています。実際の生活の中で仮説検証を行う「フィールド実験」、経済学と機械学習の融合研究にも励んでいます。

スティーブン アイビンス 准教授
Ivings, Steven

①社会経済史
②グローバル経済がいかに形成されたのか、どんなインパクトを与えられたのかを研究しています。

秋田 祐哉 教授
Akita, Yuya

①知能情報学、データサイエンス
②事象の複雑な要因を解き明かし、人間のように判断する仕組みを実現するところにデータサイエンスや人工知能の楽しさがあります。

安達 貴教 准教授
Adachi, Takanori

①産業組織論、競争政策論、応用ミクロ経済学、実証ミクロ経済学
②不完全競争という視点を通して、労働市場や金融市場も念頭に置きながら、現代経済の諸問題を考えていくことに関心を持っています。

天野 良明 講師
Amano, Yoshiaki

①財務会計、企業分析、合併・買収（M&A）
②企業の成績表である財務諸表を作成するルールが変わることで、企業の行動がどのように変わるのかに関心があります。

砂川 伸幸 教授
Isagawa, Nobuyuki

①コーポレートファイナンス、ESG経営
②ESG要素と財務指標を統合的かつ論理的に組み合わせて、企業価値や事業価値の評価額を算出することが面白いです。

岩島 史 講師
Iwashima, Fumi

①ジェンダー史、農業経済学、食と農の社会学
②農業、地域社会、女性、家事労働のように「経済」からは見落とされがちかつ不可欠な領域に焦点をあてることで、研究や社会の前提を批判的に問い直すことができます。

岩瀬 祐介 講師
Iwase, Yusuke

①マーケットデザイン・メカニズムデザイン
②「適材適所」な資源配分を達成する社会制度を、数学・アルゴリズムを用いて構築します。工学的・実践的な側面を有する分野です。

江上 雅彦 教授
Egami, Masahiko

①ファイナンス工学、動学的最適化
②さまざまな工夫（数学、統計学、数値計算）を活かして確率の世界での価格付けと最適化を研究します。

岡 敏弘 教授
Oka, Tosihiro

①厚生経済学、環境経済学、古典派価値論
②環境経済学の面白さは、異分野を自由に渡り歩いて、どの経済学を使うかを選ぶことにあり、そのために諸学派を知ることにある。

數村 友也 講師
Kazumura, Tomoya

①メカニズムデザイン、ミクロ経済学
②メカニズムデザインでは、市場がうまく機能しない状況において、望ましい結果を達成する制度の解明をおこなっています。

北田 雅 講師
Kitada, Miyabi

①臨床心理学、医療経済学、高等教育学
②臨床心理学は人間の可視化できない部分が捉えられ、深みがあります。醍醐味は統計的分析を通じて、新たな知見が得られる点です。

草野 真樹 教授
Kusano, Masaki

①財務会計、国際会計
②会計基準の変更が会計情報の作成者および利用者、そして監査人に及ぼす経済的影響に関心を持って、研究を進めています。

黒澤 隆文 教授
Kurosawa, Takafumi

①経済史・産業史・経営史、経済政策史
②法則性に関心を限定せず、経済的・社会的事象の構造・特質・変化や、それらがなぜそこに実在するのか、その意味を読み解きます。

ケヴヘイッシュウィリ ルースダン 講師
Rusudan, Kevkhishvili

①ファイナンス工学
②確率過程の理論研究とその成果のファイナンス問題への応用を通して、不確実性に満ちた現実世界と理論を結ぶ学際的分野。

高野 久紀 准教授
Kono, Hisaki

①開発経済学
②途上国の貧困問題や経済発展を扱う開発経済学を研究しています。経済理論とデータ分析から途上国の様々な問題に関する分析と政策提言を行います。

小林 舞 特定助教
Kobayashi, Mai

①農村社会学、環境社会学
②農村社会が誰により、どのように変化してきたか、変化しうるかを研究し、それが私たちの日々の生活にどのような影響を及ぼし得るかに関心があります。

坂出 健 教授
Sakade, Takeshi

①経済安全保障
②経済安全保障論は、経済の側面から、また社会心理の側面から国際安全保障を考える視点です。

佐々木 啓明 教授
Sasaki, Hiroaki

①経済理論、経済動学、経済成長論
②経済成長論を学ぶことにより、一国の経済成長率がどのように決定され、各国の経済成長率はなぜ異なるのかを知ることができます。

澤邉 紀生 教授
Sawabe, Norio

①会計学、管理会計、マネジメントコントロール
②会計という企業などの組織活動を認識し表現する仕組みを研究することで、会計によって組織や社会がどのように変わっていくのか理解を深めることができます。

島本 哲朗 教授
Shimamoto, Tetsuro

①金融論
②現実経済の仕組みやお金の流れがよく理解できます。

周 愚 特定講師
Zhou, Yu

①ゲーム理論、マーケットデザイン、公共経済学
②市場の失敗をどうやって克服するのか、という問いは現代社会に突きつけられた最も重要な課題と言えるだろう。

白井 亨 助教
Shirai, Toru

①図書館情報学、学術情報利用
②経済学や経営学における多様な学術情報の特性とそのアクセス方法などについて、図書館情報学の視点から考えています。

神事 直人 教授
Jinji, Naoto

①国際経済学
②日本や世界におけるグローバルな経済活動の様々な課題に対して、理論的・実証的な研究によって答えを見つけていきます。

鈴木 寛之 講師
Suzuki, Hiroyuki

①管理会計、原価計算、環境管理会計
②管理会計は実学としての側面を持ち、実践方法に多様性があり、また組織運営のみならず日常生活を送る上でも有用です。

関口 倫紀 教授
Sekiguchi, Tomoki

①人的資源管理論・組織行動論
②働く人々の心理や行動について深く理解し、それを組織運営、人事管理、キャリアデザインなどの実践に役立てることができます。

竹内 憲司 教授
Takeuchi, Kenji

①環境経済学
②環境経済学は、学際的な性格を強く持っています。分野にとらわれない自由な発想を大切にしたい方のチャレンジをお待ちしてます。

竹澤 祐丈 准教授
Takezawa, Hiroyuki

①社会思想史
②私たちの社会の枠組みや常識はいかに形成されてきたのか。目に見えるものを、その背後の価値観や考え方からスリリングに分析。

田所 篤 講師
Tadokoro, Atsushi

①企業の異質性を伴う貿易政策の理論分析
②企業間で生産性が異なることを想定した枠組みで貿易政策の効果を分析することにより、貿易政策の新しい政策的含意を得られる点。

田中 彰 教授
Tanaka, Akira

①経営史、産業論
②優れた産業論の成果は、それ自体が最高の読み物であると同時に、ストーリーを通して現象の背後に貫く論理を教えてくれます。

張 砣 特定助教
Zhang, Tuo

①資源環境経済学、応用ミクロ経済学
②再生可能エネルギーの大量導入を背景にして、経済学の方法で電力市場メカニズムの設計問題を研究しています。

アスリ チョルパン 教授
Colpan, Asli M.

①企業戦略、国際経営、企業統治、経営史
②主に非関連多角化しているコングロマリット、ビジネスグループのような企業の戦略やガバナンスについて研究をしています。

教員紹介

①専門分野　②専門分野の面白さについて　③QRコード

杜 依濛 特定講師
Du, Yimeng

① 環境経済学
② 経済学の理論や手法を用いて、環境問題の解決手段に取り組む学問です。気候変動、大気汚染、森林や生態破壊、エネルギー危機…世界で起きていることを捉えて研究できることが面白いです。

中林 純 教授
Nakabayashi, Jun

① 産業組織論
② 調達について理論・実証研究をしています。調達とは、他人(ヒト)のカネで他人(ヒト)のモノを買うことです。無駄遣いが減って不正や談合の温床とならないような制度設計などについて考えています。

西山 慎一 教授
Nishiyama, Shinichi

①マクロ経済学、財政政策、社会保障制度
②税や社会保障といった政策・制度が経済成長や所得・資産格差に及ぼす影響を、動学的なマクロ経済理論を通して探究しています。

根井 雅弘 教授
Nei, Masahiro

①現代経済思想史
②マーシャル、ケインズ、シュンペーターなどの古典的名著をひもとき、現代の経済問題を考察するヒントを探ることにある。

長谷川 誠 准教授
Hasegawa, Makoto

①公共経済学
②税制など、様々な政策や制度の効果を経済学の理論を用いて考察したり、データを用いて定量的に検証したりすることです。

羽田 祥子 特定助教
Hata, Sachiko

①アントレプレナーシップ、組織論
②大企業と「うまく」関わるオープンイノベーションの工夫などスタートアップの企業間関係には起業家の知恵が駆使されています。

羽村 靖之 講師
Hamura, Yasuyuki

①数理統計学
②データから情報を引き出す際に、通常の手法よりも良いものを構成できる場合があり、面白いと思います。

原 良憲 教授
Hara, Yoshinori

①イノベーションマネジメント
②米国・シリコンバレーや京都における起業や新事業開発について、具体的な事例や経験則を交えながら教育研究を行っています。

久野 秀二 教授
Hisano, Shuji

①農業・食料の政治経済学／社会学
②生命と生活に関わる食と農は現代社会の矛盾を映す鏡です。規範性と批判性に根ざした食農ガバナンス研究が求められます。

馬 騰 特定講師
Ma, Teng

①環境経済学、エネルギー経済学
②電力市場・排出権取引市場を注目、気候変動政策とエネルギー政策を経済学の視点から分析します。

牧野 成史 教授
Makino, Shige

①経営戦略、国際経営、組織理論
②複雑でダイナミックな経営環境を乗り切るための意思決定、経営戦略、組織設計の醍醐味を学べるところ。

松井 啓之 教授
Matsui, Hiroyuki

①計画理論(Planning Theory)
②「計画」は実践を伴って意味を持ちます。計画理論は、未来を創造するために必要な「計画」という行為とプロセスに共通するメタ理論です。

文 世一 教授
Mun, Se-il

①都市経済学、交通経済学
②交通費が経済活動の立地に及ぼす影響、さらにはその交通費がどのように決まるか、を研究しています。

諸富 徹 教授
Morotomi, Toru

①財政学、環境経済学
②財政も環境も、経済成長と環境保全、経済成長と所得再分配のトレードオフの中で、持続可能性をどう実現するかが鍵になります。

門傳 藍香 講師
Monden, Aika

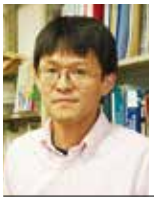
①マーケティング
②企業が価値を創造し、その可能性を最大限に発揮するためのマーケティング戦略は、実学的で生きた学問であるという魅力があります。

安井 大真 准教授
Yasui, Daishin

①マクロ経済学、人口経済学、労働経済学
②マクロ経済学では、時間を超えた複数の市場および経済主体の相互作用を考え、ときに意外な発見があります。

柳 貴英 講師
Yanagi, Takahide

①計量経済学
②「いつ、どのようにして、興味のあることをデータから調べられるか?」の考え方に特有の面白さがあります。



矢野 剛 教授
Yano, Go

①途上国・移行国経済論
②経済発展のプロセスとメカニズムを、そもそも市場が発生し機能するとはどういうことかという本質中の本質から考察する点です。

山内 裕 教授
Yamauchi, Yutaka

①組織論、サービス、デザイン
②歴史を画すようなイノベーションを起こすために、社会の変化を読み取り、新しい時代を表現するアプローチを追求しています。

山田 憲 教授
Yamada, Ken

①労働経済学、家族の経済学
②日々の生活に関わる比較的身近な問題を研究の題材にしてその中にある普遍的な法則をデータから解き明かします。

山田 仁一郎 教授
Yamada, Jin-ichiro

①経営学、アントレプレナーシップ、経営戦略論、組織論
②市場や社会の常識が瞬く間に移ろう中で、企業家や経営者、組織の問題から世界を読み解くことは、とても見晴らしが良いのです。

遊喜 一洋 准教授
Yuki, Kazuhiro

①マクロ経済学、経済発展論、労働経済学
②主に途上国の経済発展問題についてマクロ経済的な分析を行っています。政治学など経済学以外の知見も活用して研究しています。

楊 燕莉 特定助教
Yong, Yennie

①経営史、経済史、産業史
②新興国においては、植民地やポストコロニアル時代に、産業や企業の基盤がどのように形成されたかを研究しています。

劉 徳強 教授
Liu, Deqiang

①経済発展論、中国経済論
②ダイナミックに変化する中国経済の実態を把握するとともに、経済発展と政治体制との関係を探求する。

芦 宛雪 特定助教
Ro, Ensetsu

①アジア経済論
②多角的な視点から現地社会を総合的に理解した上、アジア諸国の経済発展問題を考察することです。

若井 克俊 教授
Wakai, Katsutoshi

①ミクロ経済学、意思決定論
②個人の意思決定方法を理論的に研究しています。導出したモデルを用いて経済問題を分析することで新たな視点を提供できます。

若林 直樹 教授
Wakabayashi, Naoki

①マクロ組織論、ネットワーク組織論、組織社会学
②マクロ組織論は、企業グループや企業間提携などの企業同士の協働のメカニズムについて経営学的、社会学的な観点から研究します。

渡邊 純子 教授
Watanabe, Junko

①日本経済史・経営史
②歴史は人間や社会の本質をとらえるための材料を提供してくれます。複雑な事象の相互関係や因果関係を読み解く作業も面白いです。

王 涛 准教授
Wang, Tao

①Organization theory, Economic sociology
②How market identity emerges, changes, and sustains, and how organizations and audiences interact and shape such identity.

Dataで見る経済学研究科・経済学部

基本情報

	経済学部	大学院経済学研究科	
		修士	博士
設立	1919年(大正8年)5月	1953年(昭和28年)4月	
入学定員数	240名	70名	25名
卒業／修了所要単位数	140	30	—
学位授与数累計	24,702	2,117	1,158
所在地	京都大学吉田キャンパス		

(2021年度)

教員数

(2023.4現在、併任含む)

区分	人数
教授	30
准教授	9
講師	13
助教	6
合計	58

在籍学生数

(年度)	2018	2019	2020	2021	2022
経済学部	1,134	1,125	1,096	1,090	1,097
大学院経済学研究科	218	229	232	233	286
合計	1,352	1,354	1,328	1,323	1,383

学位授与状況

(年度)	2018	2019	2020	2021	2022
学士	253	273	250	255	253
修士	47	47	68	58	64
博士	27	21	29	16	14

競争的外部資金受入状況

(2021年度)

	(千円)
科学研究費補助金	54,990
寄附金	18,428
受託研究	62,672
受託事業	637
民間との共同研究	43,484
機関経理補助金	12,580
合計	192,791

科学研究費補助金採択件数

(2021年度)

	(人)
基盤研究(A)	0
基盤研究(B)	7
基盤研究(C)	10
挑戦的萌芽研究	2
若手研究	11
合計	30

学部卒業者の進路状況

(年度)	2017	2018	2019	2020	2021
建設業	6	0	4	1	2
製造業	31	28	28	25	28
電気・ガス	7	6	9	5	2
情報通信業	32	23	40	28	22
運輸・郵便業	11	7	10	3	6
卸売・小売業	20	17	19	19	12
金融・保険業	56	59	52	42	57
不動産業	8	11	4	8	8
学術研究・専門技術	35	45	49	47	46
飲食・宿泊業	0	1	0	2	1
教育・学習支援	5	4	3	4	5
公務員	8	6	6	8	12
サービス業その他	11	7	11	8	12
進学 ( )内は経済学研究科	13(6)	23(9)	25(10)	24(13)	24(20)
上記以外	22	16	13	26	18
合計	265	253	273	250	255

修士課程修了者の進路状況

(年度)	2017	2018	2019	2020	2021
博士後期課程進学 (他研究科・他大学含む)	19	17	15	14	13
官公庁	0	0	1	1	0
企業	17	24	23	38	30
その他(不明・未回答等含む)	9	6	8	15	17
合計	45	47	47	68	60

博士後期課程修了者の進路状況

(年度)	2017	2018	2019	2020	2021
大学及び研究機関	15	10	6	12	2
官公庁	1	1	1	1	0
企業	4	5	5	0	1
その他(不明・未回答等含む)	7	8	6	13	6
合計	27	24	18	26	9

Academic Calendar 2023

●学部・大学院共通　●学部関係　●大学院関係（東アジアコース*：東アジア持続的経済発展研究コース）

4

●前期開始（4/1）
●入学式（4/7）
●入学ガイダンス
●前期授業（4/10～7/21）
●前期科目履修登録
●博士後期課程研究計画書提出

5

6

●創立記念日（6/18）

7

●前期試験期間（7/24～7/28）
●修士論文提出（東アジアコース*）
●博士研究成果報告書提出
（東アジアコース*）

8

●夏季休業（8/5～9/30）

9

●前期終了（9/30）
●修士課程入学者選抜試験
●大学院学位授与式（東アジアコース*）
（9/25）

10

●後期開始（10/1）
●後期授業（10/1～1/23）
●後期科目履修登録
●入学式（東アジアコース*）（10/1）
●博士研究計画書提出（東アジアコース*）

11

●11月祭
●学部特色入試

12

●冬季休業（12/29～1/3）

1

●大学入学共通テスト（1/13・14）
●後期試験期間（1/24～1/30）
●修士論文提出
●博士研究成果報告書提出
●博士後期課程編入学選抜試験
●博士後期課程編入学社会人特別選抜

2

●学部入学者選抜試験（2/25・26）
●外国学校出身者特別選抜

3

●後期終了（3/31）
●卒業式（3/26）
●大学院学位授与式（3/25）

京都大学

京都大学
大学院経済学研究科・経済学部

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL.075-753-3400 FAX.075-753-3492

URL www.econ.kyoto-u.ac.jp